



ニューズレターくまもと

Vol.133
2023.Summer

NEWS LETTER KUMAMOTO

■ 発行:一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 〒860-0806 熊本市中央区花畑町4番18号(熊本市国際交流会館)
■ Publisher:Kumamoto International Foundation(KIF)TEL:096-359-2121 / FAX:096-359-5783
Mail:pj-info@kumamoto-if.or.jp URL:https://www.kumamoto-if.or.jp

★CONTENTS★

P1-2 進路ガイダンス

P3 ブラジルふれあい日本の旅

P4 ちょっと言わせてはいよ～さよなら熊本～

P5 ちょっと言わせてはいよ～こんにちはは熊本の皆さま～

P6 世界を知る JICA 国際協力推進員のご紹介

P7 世界を知る JICA グローカルプログラム協力隊のご紹介

P8 ボラキャンを終えて、賛助会員募集

「外国ルーツの生徒と保護者のための進路説明会」(略称:進路ガイダンス)

NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと 副代表 岩谷 美代子

進路ガイダンスは、2006年に熊本県の公立高校入試において「海外帰国生徒等の入試特別措置」が実現したことをきっかけに、毎年1回7月に開かれるようになり、今年で18回目を迎えました。2023年7月2日(日)熊本市国際交流会館には、10ヶ国の外国ルーツの中学生と保護者が過去最高の27組参加しました。通訳、教育委員会、中学校の先生方、先輩高校生大学生、日本語指導者、スタッフなど合わせて100名以上の参加で大盛況でした。

進路ガイダンスとはどのようなもので、どうして必要なのかをご紹介します。

① 外国ルーツの生徒と保護者は、日本の教育システムをよく知りません。進路ガイダンスでは高校の種類(全日制、定時制、通信制など)とその特徴、公立と私立の違い、学費、高校入試までの具体的なスケジュールなど基本的なことについて「進路案内」(4カ国語版)を配布し、通訳を介して説明します。

② 県教育委員会高校教育課より「海外帰国生徒等の入試特別措置・特別配慮」について詳しく説明します。



岩谷氏の挨拶

【特別措置について】

<対象者> ①中国等帰国生徒(小4以降に帰国した人)

②外国人生徒(小4以降に入国した人)

③海外帰国生徒(現地校に1年以上通っていた人で中1以降に帰国した人)

となっていて、日本に来てから高校受験まで3～6年の猶予がある。

<特別措置の内容>

5教科の中から志願者があらかじめ選択した3教科の学力検査と作文及び面接を実施する。

作文の分量は800字程度、試験時間は50分。

<実施する高校>

全公立高校の全日制、定時制の全学科・コースで実施される。
入学できるのは各高校の募集定員の枠内で若干名である。



個別相談の様子

【特別配慮について】

- ① 検査時間の延長 ② 別室受験など

～熊本県教育委員会からのお願い～

二重国籍の場合や母国と日本を行ったり来たりしている場合などについては、特別措置で受験できるかどうかは個別に判断することになる。「特別措置」「特別配慮」のいずれも中学校と高校との連絡や情報交換が重要なので、とにかく早めに相談してほしい。

- ③ 先輩高校生が合格体験発表を行います。自分と同じように外国からきて受験を経験した先輩の話は身近で説得力があります。

- ④ 進路ガイダンスのメインは個別相談会です。

学校の三者相談では言葉の問題や時間制限もあり納得のいくまで理解することは難しいですが、進路ガイダンスでは、通訳を交えて中学校の進路担当の先生が親身になってあらゆる質問にこたえてくれます。先輩高校生からは、勉強方法や志望校選択、高校生活について貴重なアドバイスをもらうことができます。生徒が特別措置の対象者なのかについても相談することができます。

進路ガイダンスは外国ルーツの生徒と保護者にとってなくてはならないものになっています。今後は県南、県北を含めた県下全域からの参加が増えることを願っています。



ガイダンスの様相

外国にルーツを持つ子どもの教育に関する相談などお気軽にお問合せください。

NPO 法人外国から来た子ども支援ネットくまもと（熊本県教育委員会委託）

《電話》 080-3974-7493

毎月第2日曜日、第4日曜日 15:00～17:00 受付の人は日本語を話します

《メール》 kodomosoudan@shiennet-kumamoto.org

24時間受け付けますが、返信に2, 3日かかります。



日本語版
(子ども・保護者)



日本語版
(学校・市教委)



英語版
(子ども・保護者)



中国語版
(子ども・保護者)



タガログ語版
(子ども・保護者)



ブラジルからこんにちは！「ブラジルふれあい日本の旅」
熊本でホストファミリーとの交流！！



熊本市国際交流振興事業団では、ブラジルで日本語を学び主に日本にルーツを持つ学生たちが熊本を訪問するのに合わせ、ホストファミリーボランティアの方々との交流の場を提供しています。熊本地震やコロナ禍の影響で近年は見送られてきた来熊も、実に10年振りに再開され、本年7月7日(金)から10日(月)までの3泊4日、ブラジルの学生たちとの楽しい交流を満喫いただきました。この旅を主催するブラジル日本語センターは1985年、ブラジル、サンパウロにて創立され、主な活動としては日本語教師養成・研修や日本語能力試験、日本語指導に、日本語学校作品コンクール(作文、絵画、書道など)、国内合宿「日本語ふれあいセミナー」や日本体験の「ふれあい日本の旅」など年間20以上の事業を行っています。



ブラジル日本語センター主催の「ふれあい日本の旅」は2005年に始まり、その後2年おきに現在まで実施してきました。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、開催の延期を余儀なくされてきましたが、本年、4年ぶりに8回目を実施することが叶いました。15歳から19歳までの感受性の強い時期の高校生たち35名(引率2名含む)の日本縦断旅行です。北は北海道から南は鹿児島や熊本まで、約1ヶ月の旅となりました。

この企画の第一の目的は日本文化を体験し、日本の皆様とふれあう事です。

特に熊本と和歌山ではホームステイ体験交流を行いました。3泊4日の短い期間ではありましたが、生徒達はホームステイを通して色々なことを体験し学びました。充実した実り多いホームステイとなったことを本当にうれしく思います。ホームステイで得た貴重な経験は各生徒の人生に大きな影響をあたえます。生徒達は帰国後大学を卒業し、社会人になり、日伯友好の絆を一層深めるようあらゆる分野で努めるようになると言っても過言ではありません。



事業団の皆様、そしてホストファミリーの皆様の温かいおもてなしは、日本が大好きな数多くの若者の育成の源となっています。

ふれあい日本の旅実行委員長 志村 マルガレッツ

ホストファミリーからの感想(抜粋)

《高潮ファミリー》

ブラジルからのホームステイの受け入れをさせていただき、ありがとうございました。初めての受け入れでしたが、家族全員にとって、とても貴重な経験となりました。我が家は2歳、6歳、8歳の三兄弟ですが、とても優しいお兄ちゃんが来てくれて大喜びでした。今回のホームステイを通して3人それぞれ感じたことがあるようで、国際交流は年齢に関係なく楽しめるというか、よい経験になるなど改めて実感いたしました。彼が大きな画用紙に絵とメッセージを残してくれたので、彼が来た思い出として写真と共に額に入れて飾ろうと思います。最後の夜は子ども達もみんな大泣きでしたが、さよならをした後WhatsAppで音声メッセージや動画でのやり取りをして、楽しんでいきます。まだまだ子ども達も手がかかり、毎日の育児に奮闘している日々の中、我が家にできるだろうかと悩みながらの応募だったのですが、受け入れさせていただき本当に良かったです。



《柏木ファミリー》

日系ということもあり、性格も日本人に近く、マナーも良くびっくりしました。祖母の家に行き、子どもも、おばあちゃんもみんなでラジオ体操をしました。普通に梅干しを食べたり、子どもにルービックキューブやポルトガル語を教えてくれたりして、子どもたちもとっても喜んでいました。

《久保田ファミリー》

家族でとても貴重な経験となりました。迎えるまでは不安なことも多かったです。いざ迎えてからは不安もさることながら、楽しい思い出をたくさん作る事ができました。



ちょっと言わせてはいよ！ ～アメリカの国際交流員ピュージル ウォルターさんからのメッセージ～

2018年8月から熊本市のアメリカ国際交流員として勤務されていましたがピュージル ウォルターさんが2023年7月をもって5年間の任期を終え退任されました。今回、熊本での思い出をご寄稿いただきました。

みなさん、こんにちは！熊本市の前アメリカ国際交流員のピュージル ウォルターです。今年の7月をもって5年間の任期が満了しましたので、これまでの自分の経験を振り返るとともに、みなさんへ感謝の気持ちを伝えたいと思います。

JET プログラム参加者は、それぞれの配属先で一人ひとり違った経験をするでしょう。その中でも、私の5年間の経験は、特にユニークなものだったと思います。大学卒業後すぐに、アメリカ国際交流員として熊本市に着任した際には、平成28年の熊本地震から2年しか経っておらず、熊本城は未だ入場禁止でしたし、今では素晴らしい景観となった桜町エリアもバス停があるのみで、熊本駅も工事中、そのような状況でした。



その後、最後の2年間は Covid-19 の発生により世界中が混乱している状況でしたので、私としては非常にドラマチックな5年間だったと思っています。このような様々な困難が続いている中においても、熊本のみなさんはずっと元気を出して、少しずつ状況を改善していこうとしている姿を私は見続けていました。地域レベルの取組に関して言えば、熊本城の作業員が、石垣を元の位置に少しずつ積み直す大変な作業を行っていますが、そのような努力のもと、あっという間に天守閣が完全修復され、公開がスタートしています。世界レベルの取組に関して言えば、コロナ禍においても海外の友好姉妹都市との交流に取り組んだり、2021年にはドイツ・オリンピック水泳チームの合宿を受け入れたり、2022年には岸田総理大臣を含め40か国以上の首脳が出席するアジア太平洋水サミットを熊本市で無事に開催したりしていました。

私が熊本で学んだことは、どのような状況であっても「敗北」にバットするべきではないということです。そのような状況下に



においても、みなさんは何とか活路を見出そうとしていたからです。これらの取組に実務者として参加した経験として、これらの輝かしい実績の舞台裏では、カオスともいえる大変な準備があることを知りました。スタートさせるだけでも大変な努力が必要なのに、それらをうまくとりまとめながら進めていくことはさらに困難を伴うものでした。しかし、私以外にも地元の関係者から海外の関係者まで、立場に関係なく、様々な方々の協力もあり、一見不可能と思えたことも実現に結び付けることができました。これらの取組の中で私自身の役割は小さいものだったかもしれませんが、彼らとともに様々な人を結び付けていく仕事は、私にとって本当にやりがいのある仕事でした。このような文化アンバサダーとも言える方々によって、国際交流員の役割を果たす機会を作っていただいたことに心から感謝しています。そして、私が彼らから与えてもらったことと同様に、これらの仕事を通して、私自身が他の人たちに対して世界を新たな立場から見る機会を与えることができているならば、なお嬉しく感じます。

最後になりますが、私を温かく歓迎してくれた熊本のみなさんに感謝を申し上げます。熊本から離れることを考えるだけで寂しい気持ちになります。この街は私にとって故郷になりました。本当にありがとうございました。



ちょっと言わせてはいよ！ ～ 2023年8月に着任した国際交流員お二人のご紹介 ～

★カナダの国際交流員 ジョナサン・ヴォング(ジョン)さん



Hey, カナダから来ましたジョナサン・ヴォングと申します。2023年8月9日に熊本市のカナダ CIR として着任しました。国際交流員の仕事は、私にとって初めての仕事です。着任したばかりで、仕事の内容は翻訳が多いですが、他にも通訳や国際交流会館で開催される異文化理解講座、相談業務及び学校訪問等の仕事もあります。国際交流員の仕事をひとことで言うと、市民の皆様が異文化と振れ合う機会を作り、支援することです。9月の初回の「カナダカフェ」では、軽く自己紹介をしますので、是非来場してください。これからも市民の皆様との交流がもっと増えればいいと思います。よろしくお願いします。

《インタビュー》

熊本のいいところ

一 至る所にくまモンの姿が見られます。電車、像、店の前においてあるぬいぐるみなど、本当にどこにでもあるかわいいマスコットがすばらしいと思います。くまモンほどではないですが、自然の豊かさもいいです。

熊本に住む外国の方へ一言

一 初めての来日というわけではないですが、初めての仕事で、初めての熊本市生活です。不慣れなことばかりで、最初の方は周りの皆さんにご迷惑をかけるかもしれないですが、今の自分の限界を超えて、頼れる人になれるよう、一所懸命がんばりたいと思います。

★ドイツの国際交流員 マリア・ヴォーニヒさん



Hallo Kumamoto! 熊本の皆様、8月9日に熊本市に着任しました新任のドイツの国際交流員(CIR)のマリア・ヴォーニヒです。

私はベルリンに生まれ育ちました。地元のフンボルト大学で日本語や日本の文化を学びました。旅行が好きなので、日本のいろいろな場所を見たいと思っています。日本の歴史はとても興味深いので、蚤の市で古いものを見つけ、その背景を学ぶことがとても面白いと思います。それにスポーツ、特に水泳、ジョギング、ハイキングが好きです。熊本の生活に慣れたてきたら、合唱団で歌いたいです。

これから熊本市の友好都市のハイデルベルクの交流を担当することを楽しみにしています。ハイデルベルクはとても素敵な街で、多くの交流プロジェクトがあります。私は毎週水曜日 13時から国際交流会館でドイツ相談を行っています。できる限りドイツの生活、文化、言語の質問にお答えしたいと思いますので、お気軽にお立ち寄りください！

《インタビュー》

熊本のいいところ

一 熊本に来たばかりですが、すでにたくさんの優しい人たちと出会って、素晴らしい花火大会を見ました。

熊本に住む外国の方へ一言

一 悩みや不安があれば、ぜひ国際交流会館に来てください。一所懸命お手伝いさせていただきます。



世界を知る

本項では「世界を知る」をテーマに JICA(独立行政法人国際協力機構) デスク熊本や、国際交流・国際協力分野で活躍している方、海外で生活している方々の協力を得て、日本で生活する私たちが日ごろ知ることが出来ない世界の興味深い状況をご紹介します

JICA 国際協力推進員のご紹介 ～ 木下 俊和さん ～

5月よりJICA国際協力機構の国際協力推進員として着任しました木下俊和と申します。担当業務は、外国人材・共生、多文化共生に関わる活動をしています。

ご存じの方も多いと思いますが、JICA といえば国際協力、発展途上国への国際協力を行う組織では?と思われる方も多いと思います。ご承知のとおり、現在日本には 290 万人を超える在留外国人、3ヶ月以上に渡り仕事や留学などで滞在する人が急増しています。

熊本県内にも最新のデータでは約20,000人を超える外国人の方々が居住しています。在留外国人が増加しているなかで、さまざまな課題も明らかになっています。メディアでも取り上げられていますように、外国人の方々が日本、熊本で生活する上で様々な困難やトラブルに巻き込まれることがあります。生活上のルールや習慣の違いから誤解されたり、偏見を持たれたりすることもあります。外国人の方々と熊本の地域の方々とが共に生き、より良い社会を作っていけるようになることが求められています。在留外国人の方々の中には、技能実習生や特定技能といった資格で在留されている方が多くおられます。今や外国人材は、熊本の経済・産業の重要な担い手となっています。最近ではそうした外国人材の獲得競争も激しくなっており、外国人材の方々に熊本を選んでいただけるかということも新たな課題として意識されるようになってきました。外国人の方々にとっても、安全に、安心して生活できる環境づくりは喫緊の課題ともいえます。

そのような社会状況の中で、JICA は国内における多文化共生への協力も行っています。現在熊本では、外国人材の方々と共に経済・社会を創っていくことを真摯に取り組んでおられる企業の皆様、そして外国人の支援を行っている団体の皆様、そして外国人コミュニティの皆様とともに”KUMAMOTO KURASU”というグループを設立し、熊本の多文化共生社会を創るための仲間作りに取組もうとしています。

少し私の自己紹介をさせていただきます。私は熊本生まれの熊本育ちです。大学を卒業した後、鶴屋百貨店に入社し、旅行事業部や販売促進部などで業務を行いました。2005年に鶴屋を退職し、青年海外協力隊に応募し、南太平洋の島国であるパプアニューギニアという国で2年間観光分野の活動に従事しました。帰国後も国際協力業務に携わっていましたが、2013年に縁があり、東南アジアの内陸国であるラオスという国で JICA 派遣専門家として2年間観光マーケティングと開発に携わりました。ラオスから帰国後も、JICA との縁は続き、JICA 札幌センターの観光分野の課題別研修のコースリーダーとして、発展途上国の方々と北海道の方々とともに観光マーケティングや観光開発、持続可能な観光資源管理など様々な活動を経験させていただきました。現代社会においてますますグローバル化は進化しています。私が学生の頃は、国際化と呼んでいたと記憶しています。日本人が外国に行く、外国人が日本に来る。互いに往来を重ね、交流、ビジネスをするといったものでした。しかし、現在では日本や熊本の中にも外国が存在する、といっても過言ではなく、共に社会を構成する存在となっています。グローバル化からグローバルカリゼーションの時代となっています。言葉や習慣、文化の違いを互いに認めあい、尊重し合い、共に生きていく社会づくりが不可欠となっています。国際協力推進員として、そんな多文化共生社会を創るお手伝いができれば良いと思っています。どうぞよろしくお願い致します。





続・世界を知る

JICA海外協力隊グローバルプログラム

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団所属 五嶋 友香さん

みなさん、こんにちは。五嶋友香(ごとうゆうか)です。わたしは JICA 海外協力隊のグローバルプログラムという派遣前のプログラムで、7 月中旬頃から 9 月中旬頃まで熊本市国際交流振興事業団(以下、KIF)の日本語教育の活動に参加していました。JICA 海外協力隊についてはご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、グローバルプログラムについては馴染みがないという方のほうが多いのではないのでしょうか。グローバルプログラムは 2022 年に新たにできたもので、JICA 海外協力隊の合格者全員が参加する訓練所(長野県駒ヶ根市か福島県二本松市)への入所前に、希望者のみが日本各地で約 3 か月間生活し、地域の課題解決に取り組むというものです。訓練所入所前に日本国内の地域活性化の取り組みを知り、学ぶことで、派遣後の海外での活動で活かされることが期待されています。わたしは、JICA 海外協力隊の日本語教師として 2024 年 1 月頃(仮)に、南米パラグアイのエンカルナシオンという地域に派遣される予定です。日系社会にある日本語学校で、現地の子どもたちに日本語を教えます。今回、わたしは幸運にもグローバルプログラムで日本語教育の活動に参加できましたが、この形態は珍しく、ほかの実習生は JICA 海外協力隊の職種とは異なる活動をしていた者がほとんどです。熊本県には、玉東町 2 名、宇城市 1 名、人吉球磨地域 3 名が、わたしと同じ時期に活動していて、それぞれが新たなことにチャレンジしていました。わたしは 2023 年 3 月に都内の大学院(日本語教育分野)を修了し、九州に来る前までは都内の日本語学校で非常勤講師として勤務したり、都内の地域日本語教室に参加したりしていました。しかし、日本語教師としてはまだまだ知見が足りず、経験を積んでいきたいと思っていたので、日本語教育の分野でグローバルプログラムに参加したいと考えていました。そんな中、今回ご縁があり、わたしは熊本市で初めてグローバルプログラムの実習生として活動することができました。



9月12日(火)くらしのにほんご
くらのグループ活動の様子

わたしは主に、KIF が実施している生活者のための「くらしのにほんごくらぶ」や、短期コースで日本語を基礎から学ぶ「はじめてのにほんご」、そして、KIF や JICA が開催している多文化共生に関するイベントに参加しました。平日に KIF で実施している「くらしのにほんごくらぶ」では、日本語学習者とペアを組むこともありましたが、「はじめてのにほんご」は担当講師が決まっていたので、基本的には授業を見学していましたが、8 月 11 日(金)はわたしも授業を担当しました。また、9 月 10 日(日)の大津教室、9 月 12 日(火)の「くらしのにほんごくらぶ」ではグループ活動を実施しました。このときは、わたしが参加していた都内の地域日本語教室(VILLA EDUCATION CENTER)の活動メンバーと出版した『ともに学ぶ「せかい」と「にほんご」』という日本語教材を使用し、日本語学習者やボランティアの方の親交を深めることを目的としました。9 月 9 日(土)は、「オンラインにほんごおしゃべり会」の担当をし、日本語母語話者と学習者が対等な立場で話し合い、学び合えるような工夫をしました。



9月10日(日)大津教室
での活動の様子

今回、熊本県の日本語教育や多文化共生の活動に参加し、新たに学んだことや知ったことがたくさんありました。グローバルプログラムを通して得たことは、今後パラグアイ派遣中や帰国後の活動に活かしていきたいです。また、今後、新たに挑戦したいことが増えました。それは、パラグアイ派遣中や派遣後に、何かしらのかたちで熊本県のみなさんに還元できるような活動をするということです。まだ構想中ですが、今回わたしがグローバルプログラムの実習生として得たこと、JICA 海外協力隊としてこれから得るであろうことを、熊本県の日本語教育や多文化共生の分野にも活かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、わたしのことをあたたかく迎え入れてくださったみなさま、短い間でしたが、本当にありがとうございました。またいつか、みなさまとお会いできる日を楽しみにしています。

第 18 回ボラキャンを終えて(編集後記)

本年も 18 回目を迎えた国際ボランティアワークキャンプ(通称:ボラキャン)を開催しました。実行委員(EC)となった高校生10 数名を中心に春先から活動を始め、分科会の設定や交流プログラムの策定など本大会に向け30回ほどの会議を重ねる中において、時には定期試験や部活動、高校総体など、何かと多忙なECたちは、中々、全員で集まることが出来ず、LINEなどを駆使して情報共有を図りました。それでも大会直前にはほぼ全員のECたちが集まり、当日の進行の打合せを何度も行いました。そして、大会当日を迎え、一般で参加した高校生を戸惑わせることなく無事に進行し、有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。現在は、報告書を作成中で 10 月中旬には仕上がる予定です。当ホームページでも閲覧していただけるようにいたしますので、是非、ご一読いただければ幸いです。



参加者たちとの集合写真

(期 間) 2023 年 8 月 16 日(水)~18 日(金) 2 泊 3 日

(会 場) 国立阿蘇青少年交流の家

(参加者) 114 名(高校生・留学生 90 名、大学生 5 名、
アドバイザー、事務局 19 名)

(実行委員長) 鳶村 理彩さん(九州学院高校 2 年)

☆☆ 2023 年度 賛助会員募集! ☆☆

事業団では賛助会員を募集しています。私どもの活動にご理解とご支援をいただくとともに、更なる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。会員の方々には事業団の機関紙「ニュースレターくまもと」の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。ご協力いただける方はお手数ですが下記連絡先までお問合せいただきますようお願い申し上げます。

《個人会員》 一口 2,000 円 《団体会員》 一口 10,000 円

私たちは熊本市の国際交流活動を応援しています。団体会員のみご紹介いたします(敬称略) 令和 5 年 9 月 5 日時点

熊本労災病院/学校法人君が淵学園崇城大学/社会福祉法人恩賜財団済生会熊本病院/熊本保健科学大学

独立行政法人国立病院機構熊本医療センター/社会医療法人寿量会熊本機能病院/熊本日米協会

◇◇事業団 SNS のご紹介◇◇

事業団 SNS のご紹介 ~事業団が使っている SNS をご紹介します!是非アクセスしてみてくださいね!~

Instagram		Facebook			X(旧 Twitter)	Youtube	相談プラザ
メイン	外国人向け	メイン	外国人向け	相談プラザ			



《お問合せ・連絡先》

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

熊本市中央区花畑町 4 番 18 号(熊本市国際交流会館)

(休館日)第 2・第 4 月曜日、年末年始(12 月 29 日~1 月 3 日)

(TEL)096-359-2121 (FAX)096-359-5783

E-Mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp

URL: <https://www.kumamoto-if.or.jp>